

TOKAS Project Vol. 3

東京デトロイトベルリン

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo
FESTIVAL

— アート・コミュニティの現在

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo Festival の一環として「TOKAS Project Vol. 3」を実施します。

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、2001年の開館以来、海外のアーティスト、キュレーター、アートセンターや文化機関などと協働して展覧会や関連プログラムを実施してきました。2018年より開始した TOKAS Project は、国際的な交流を促進し、多文化的な視点を通じて、アートや社会など、さまざまなテーマについて思考するプログラムです。

第3回となる TOKAS Project では、アーティストであり XYZcollective のディレクターとしても活動しているコブラとともに、東京、デトロイト、ベルリンにおけるアート・コミュニティの現在の姿を紹介する展覧会「東京デトロイトベルリン」を開催します。

■ 展覧会概要

展覧会名： TOKAS Project Vol. 3 「東京デトロイトベルリン」

英語タイトル： TOKAS Project Vol. 3 “Tokyo Detroit Berlin”

会期： 2020年10月10日(土)～11月8日(日)

会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

開館時間： 11:00 - 19:00（最終入場は30分前まで）

休館日： 月曜日

入場料： 無料

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

共同企画： コブラ

参加ギャラリー： シフェ・ツアーネ(Schiefe Zähne・ベルリン)、ワット・パイプライン(What Pipeline・デトロイト)、XYZcollective(東京)、4649(東京)

ウェブサイト： www.tokyoartsandspace.jp/

< お問い合わせ > 本展に関するより詳細なプレスリリースは、2020年9月頃に送らせていただく予定です。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース 広報担当： 市川、武智

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

美術館や公的な機関ではなく、オルタナティブ・スペースやアーティスト・ラン・スペースなど、自律的なアートのコミュニティが行う国際交流に注目し、TOKAS 本郷で施設ごとに活動を紹介します。

本展は、2010 年にトーキョーワンダサイト(現 TOKAS)のレジデンス・プログラムに参加し、東京とは異なる海外のアート・コミュニティの在り方を経験したことを契機に、東京でアーティスト・ラン・スペース XYZcollective を始めたコブラと協働して開催します。東京、デトロイト、ベルリンからアート・スペースやそこで活動する作家を取り上げることで、各都市におけるアート・コミュニティの現在の姿を浮かび上がらせます。

展覧会をとおして交流や対話を促進させ、今後の新たな展開を試みます。

■ 関連イベント

詳細は TOKAS ウェブサイトで発表します。

■ 本展共同企画者

コブラ COBRA

平成 22 年度二国間交流事業プログラム<メルボルン>

TEAM 15 MIHOKANNO 「Hello! MIHOKANNO」(TWS 渋谷、2009)などに参加

■ プロフィール

1981 年千葉県生まれ。東京都を拠点に活動。2005 年多摩美術大学工芸学科卒業。2010 年にトーキョーワンダサイトのレジデンス・プログラムに参加し、メルボルンに 3 ヶ月間滞在。2011 年よりアーティスト・ラン・スペース XYZcollective を立ち上げ、代表・ディレクターを務める。他愛のない出来事を主題としてコミカルな映像作品を制作している。近年の主な展覧会に「life and limbs」(SWISS INSTITUTE CONTEMPORARY ART NEW YORK、2019)、「The Museum」(Fig、東京、2019)、「COBRA SOLO SHOW」(For Seasons、チューリッヒ、2019)など。



共同企画者テキスト | コブラ

アーティストが個人の活動を通して、日本に住みながら国際的なネットワークと繋がること、近い将来に国内外問わずより多くの展覧会を実現させていく機会を得るためにはどのようなことが必要なのか。

私が初めてアーティスト・ラン・スペースを知ったのは2010年の2月。その頃、私は東京でアーティスト活動をしていただけ、自宅をスタジオとし部屋に閉じこもりなんとなく手を動かすのみであった。海外の情報はインターネットで「Contemporary Art Daily」をググって見たりするだけで、アルバイトが休みの日には知っているギャラリーや友人の展覧会に行くくらいであった。キュレーターやギャラリストの知人もいなかった。東京のアートシーンに参加しているような実感などはゼロで、国内がそうであれば海外の美術関係者の知人など皆無だ。その当時は、美術大学を卒業して作品を作っていた人のほとんどが似たような状況であったのではないかと思う。そうでない人もいたとは思わが。

そんな時、運よくトーキョーワンダーサイトのプログラムで海外のレジデンスに3ヶ月滞在する機会を得た。場所はオーストラリアのメルボルンであった。初めて海外で生活する機会を得て、大変緊張していたのを今でも覚えている。あわよくば現地の女性と付き合えることを期待していた。しかし英語もままならず結局は、滞在先の施設に籠りがちであった。そんなある日、現地在住の日本人アーティストの誘いで、ある展覧会のオープニングに行くことになった。それが私にとって素晴らしい機会となったのである。そこは、HELL GALLERY という名前のアーティスト・ラン・スペースであった。普通の家のガレージを展覧会の会場とし、その横の部屋ではバンドのライブ、そして中庭ではバーベキューが行われていた。客は100人はいたと思う。私にとってその状況はとてもキラキラして見え、胸を躍らせた。

その後帰国し、自身の周りにどんなアーティストがいて、だれが美術関係者なのかを知り、東京のアートシーンやアートのネットワークに参加するために、とりあえずXYZcollectiveを立ち上げた。そして2013年、NADA MIAMI Art Fairにはプロジェクトブースというものがあるのを知った。それは大変小さいブースであるが、若手ギャラリーやノンプロフィットスペースに用意されたもので、参加費もとても安価である。その情報を得て、私たちは参加を決意した。NADA MIAMI Art Fairへの出展を機に国内に留まらずその活動の輪を海外にも広げ始めた。

2010年頃に、国内で感じていた疎外感は多少なりとも解消されたが、活動の輪や視野を海外に広げると同じような状況が広がっていた。そして今は、それを解消するために模索している。国内のアートシーンにおいて足りていないものは「キュレーションの輸出入」だと思う。確かに美術館や国際展ではそれが達成されているが、それらより小規模な場合は大変限られた機会しかないのが現状だ。私にとってXYZcollectiveは実験的な試みであり「場」を通じてスペースや個人単位でのキュレーションを輸出入し、活動の輪を広げる方法だ。その試みで、今後より多くの日本人アーティストが活動の場を広げることや、または海外のアーティストやスペースが日本で展覧会する機会が増えることの、何かしらの足がかりになればと考えている。

本展覧会では、海外から国際的にすでに注目をされている2つのギャラリーを紹介する。ベルリンよりシフェ・ツァーネ、デトロイトよりワット・パイプライン。ベルリンは東京よりも多くのアーティストが活動し、商業ギャラリーやオフィススペースも活気をみせている。その中でもシフェ・ツァーネは注目されているギャラリーである。またワット・パイプラインはデトロイトではすでに有名なギャラリーで、ディレクターは若いながらも、国内外問わず有名なアーティストのプログラムをすでに紹介している。両ギャラリーとも先進的な展覧会をいくつも開催しており、本プロジェクトにこれらのギャラリーを含めることで、ヨーロッパとアメリカの現状が紹介され、また東京で活動しているXYZcollectiveと4649を加えた国際交流展となることを期待している。

■ 参加ギャラリー／略歴／広報用画像

※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

シフェ・ツアーネ Schiefe Zähne(ベルリン)

ディレクター:ハネス・シュミット

シフェ・ツアーネはベルリン、プレントラウアー・ベルクにある住居ビルの裏手に位置する、元工場の1階を利用したアート・スペース。とりとめのないことの可能性やアーティスト活動のパラメーターとして実験的な活動を中心に、主に個展や2人展を開催している。ドイツ語で「不揃いの歯」を意味するシフェ・ツアーネは、社会政治的な側面をもつプログラムの性格を表している。最適化が求められる現代社会において、シフェ・ツアーネは知名度や成功の追求とは別の方向性を持った展覧会を開催することが重要だと考える。

URL: <http://www.schiefe-zaehne.com/>



1.「BUG OUT」展示風景

作家: Stuart MIDDLETON, Richard SIDES and Angharad WILLIAMS with 3fragments, Iris BAUER, Theo BURT
2018 写真: ハネス・シュミット

ワット・パイプライン What Pipeline (デトロイト)

ディレクター:ダニエル・スペリー、アリビア・ジビッチ

2013年にデトロイトで設立されたアーティスト・ラン・スペース。これまでデトロイトをはじめ、ニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルス、フランクフルト、ベルリン、ロンドン、サンパウロ、ノルウェーの作家やアーティスト・コレクティブをオフ・サイトのキュレトリアル・プロジェクトで紹介してきた。

Artadia NADA NYC 2014 では作家賞を、Knight Foundation による Detroit Arts Challenge 賞を2度受賞している。

URL: <http://whatpipeline.com/>



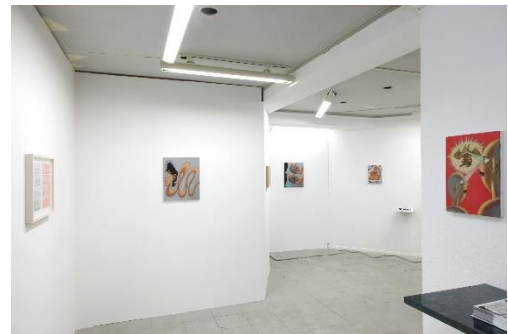
2. Michael E. SMITH ワット・パイプラインでの展示風景

Courtesy the artist and What Pipeline

XYZcollective (東京)

ディレクター:コブラ、ミヤギフトシ

2011年、世田谷の倉庫を改装し、ディレクターとしてコブラ、松原壮志朗(アーティスト)と服部円(エディター)の3名でアーティスト・ラン・スペース XYZcollective の運営を開始。2013年には NADA Miami Beach に出展し、海外のギャラリーやプロジェクトスペースと交流が始まる。近年では、それらで得た関係性をもとにネットワークを構築し、国際交流展などを開催している。現在は巣鴨を拠点に、共同ディレクターに同じくTWSレジデンス・プログラムに参加経験のあるミヤギフトシ(アーティスト)を迎え、活動を行っている。

URL: <http://xyzcollective.org/>

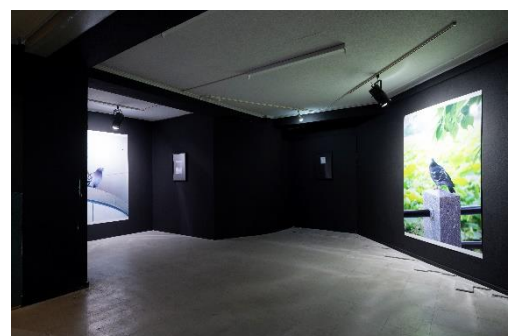
3. 堀ななみ XYZcollective での展示風景、2019

©XYZcollective and Artist

4649(東京)

ディレクター:小林優平、清水将吾、高見澤ゆう

4649は小林優平、清水将吾、高見澤ゆうによるキュラトリアルプロジェクト。海外のアートシーンを展覧会によって紹介すると同時に、海外のアートフェアやギャラリーで東京の若手作家展を企画している。またアーティストとしての研究や関心に基づいたキュレーション・出版等を行なっている。2018年より同名称で運営する巣鴨のアーティスト・ラン・スペースは、XYZcollectiveと共同で運営している。

URL: <http://www.4-6-4-9.jp/>

4. 村田冬実 4649 での展示風景、2019